

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】安全週間への位置付け、学校危機対応演習資料を使用した教職員研修の事前実施		
学校名	宇部市立藤山小学校		
日時	平成25年11月21日（木） 3・4時間目		
場所	運動場及び南藤山台公園	参加者	児童・教職員及び警察署職員

1 訓練のねらい

- (1) 地震、津波の際に落ち着いて、静かに避難することができるようにする。
- (2) 校内、校外の安全組織を確認し、常備体制を確立するとともに、非常の場合、機能的に行動できるようにする。
- (3) 津波時における避難経路を把握し、安全に気を付けて素早く避難する。

2 訓練の概要

- (1) 訓練の内容
 - ア 地震発生時の通報と避難体制の確立
 - イ 適切な避難経路の選択
 - ウ 避難の仕方や訓練時の体制の確立
 - エ 避難所要時間の確認

- (2) 想定

授業中に地震が発生。その後津波が発生。窓ガラスが割れ廊下や室内に散乱。校舎内のところどころに倒壊物あり。理科室前は戸棚が倒れ、ガラスも散乱し、通行不能。

- (3) 避難場所
 - 第1次避難 運動場
 - 第2次避難 南藤山台公園

- (4) 訓練の流れ
 - 放送で地震の発生を連絡
「避難訓練。緊急地震速報、緊急地震速報。15秒後に大きな地震が来ます。児童の皆さんは、机の下に隠れて、担任の先生の指示に従ってください。」
 - 各所の教職員も児童に机の下に潜るように指示する。
 - 職員室等にいる教職員による避難場所等の状況確認及び情報収集
 - 避難場所を運動場と決定する。



「避難訓練、避難訓練。今の地震でガラスが割れ、廊下には破片が多数あります。また、所々で物が倒れています。先生の指示に従い、全員、至急、上靴のまま運動場に避難してください。（2度繰り返し）行動開始」

- 児童の誘導

「黙って並んで運動場に出ます。廊下にはガラスや倒れたものがあって危険です。「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない」お・は・し・もを守ります。帽子をかぶって、廊下に2列に並びなさい。（出席簿、ホイッスル持参）

 - ・ 各所の教職員は、児童を誘導し、事前に定めている避難経路に従って運動場に避難する。
 - ・ 職員室等にいる教職員は、避難経路の各所に立ち、児童が安全に避難したことを確認後、自らも避難する。
 - ・ 教頭等は、ラジオや携帯サイトなどで情報収集をしながら避難する。



- 児童を整列させ、点呼をとり、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で校長に報告する。



- 児童・教職員全員が運動場に避難したことを確認後、津波警報が発令されたことを伝え、児童を二次避難場所へ誘導する。
「津波が押し寄せる危険があります。先生の指示に従って全員あわてずに、静かに避難を始めてください。担任の先生の指示に従ってください。」

- ・ 先見の教職員は、避難経路の状況を確認し、携帯電話、ハンドマイク等を使って、本隊と連絡をとりながら移動する。
- ・ 児童の誘導以外の教職員は、予め決めておいたポイントに立ち、交通整理等の安全確保に従事する。

- 二次避難場所に避難後、児童を整列させ点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、校長(教頭)に報告する。



- 教頭は、教育委員会へ児童・教職員の避難状況等を報告する。
- 校長による指導講評を行う。
- 避難経路を確認しながら、帰校する。
- 学校へ到着すると教室へ移動し、各学級で反省を行う。

(5) 事前指導

- ① 訓練日より1週間前を「安全週間」とし、津波の時の被害の予想などを

教えることで、避難訓練の必要性、真剣に行動することの大切さを理解させる。

- ② 避難の心構えについて話し合う。
- ③ 日頃から避難経路について確認する。
- ④ 津波がくるおそれがある場合は、運動場に集合の後、南藤山台公園などの高台に避難することも伝えておく。



3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 事前に学校危機対応演習資料を使って教職員研修をし、主体的に避難訓練に望む姿勢をもつことができた。
- ◇ 地震避難訓練の目的を理解し、適切な行動がとれた児童が多かった。また、基本的な行動の仕方を、児童は概ね理解することができた。
- ◇ 児童が二次避難場所に安全に避難したのを確認し、避難場所での整列、人員確認、報告が正確にできた。

【課題】

- ◆ 高学年が低学年を守ることを目的として、二次避難の整列順を1・6年、2・5年、3・4年といったペア学年で実施することも検討したい。
- ◆ 特別な支援を要する児童については、事前の打ち合わせを十分行う必要がある。
- ◆ 今回は、警察署の方を外部講師としてお呼びし、防災に関わる話をさせていただき、意義深い訓練となった。今後、消防の方やスクールガード・リーダーなどを呼び、防災に関する意識をより高めていきたい。
- ◆ 避難場所や避難経路については、これからも、検討していく必要がある。